28P-am482

医学部 5 年生 BSL 教育における薬剤部の関与

○鷲山　厚司[1], 山本　知佳[1], 上野　雅代[1], 窪田　愛[1], 真島　宏太[1], 二神　幸次郎[1]
（[1]福岡大病院薬）

【目的】医学部では 5 学年が約 1 年をかけ臨床実習（BSL；Bedside Learning）を行っている。福岡大学病院では薬剤部が、病院薬剤部門の機能と組織ならびに業務の理解を目的として、1 日を担当している。限られた時間の中で医師を志す学生に、薬剤師業務について理解を促すことは難しく、2008 年度に BSL 内容を薬剤師業務の理解、薬の適正使用ならびに薬剤師とのチーム医療を教育するために再構築した。今回 BSL 前後において、医学生たちが薬剤部ならびに薬剤師の業務に対する理解ができたかをアンケートをもとに検討した。

【方法】選択式項目では「薬剤部での BSL の重要性」「薬剤師業務に関する認識」「チーム医療で薬剤師に要望したいこと」「薬剤に関する基本的な知識」を共通項目とし、BSL 前後において調査した。記述式では、BSL 前は BSL に期待するものを、後では BSL 後の感想を記載してもらった。

【結果・考察】2008 年度は 101 名の学生から回答が得られた。薬剤部での BSL に対し、「興味はあるが、重要ではない」が 24.8%から 8.2%に減少した。チーム医療では信頼関係が重要であるが、そのためには薬剤師職能の理解と認識が必要である。薬剤師業務では、13 項目すべて認知度が向上した。チーム医療で薬剤師に要望することでは、とくに薬剤師の回診への参加を希望するが 33%から 56%に増え薬剤師に対する期待が大きくなったと考えられた。薬剤に関する知識では、正答率が上がり学生の知識の整理が出来たものと考えられた。医学部学生の BSL を担当し、薬剤部業務についての理解や薬剤師に対する認識の向上にも繋がっていることが判明した。今後アンケート結果を踏まえ、さらに BSL 内容の充実を図りたい。